

V. 部門の活動状況

1. 看護部

1. 概要

医療福祉生協の看護師は、地域の人々が何ものにもかえがたい「いのちと健康」を守り、地域の人々と一緒にその人の健康をつくり増進することを目指しています。埼玉協同病院看護部は理念を、「うみ育てみとる看護」とし、いのちのはじまりから最期の瞬間まで、住みなれた地域で、病気や障害を持ちながらも、その人らしい生き方を支援しつづけたらと思っています。

看護のフィールドは、いのちを営みつづける「地域」です。健康のあらゆるステージにかかわり、よりよく生きたいという願いを、地域の人々とともに“かたち”にすることにプロとしてこだわりつづけています。

私たちは、医療の質を向上させ、安全な看護を提供することを常に考えています。そのために、患者様を中心に多様な職種が自分たちの知識や専門能力を生かしチーム医療を行うことで、質の高い医療が提供できると考えます。そこでの看護師の役割は、患者様の立場に立ち、患者様の要求から出発し、それぞれの他職種と患者様の情報を共有し、その時その時に最良の医療・看護が提供できるよう、看護師は“キーパーソン”としてその役割を発揮する立場にあると考えます。

また、医療生協さいたまのセンター病院として、看護師を育成することも求められています。そのために、一人ひとりがやりたい看護を追求し、なりたい看護師を目指すためのキャリア開発と教育体制を整備しています。組織として認定看護師育成や研修会への参加支援も行っています。個人目標を持ち、キャリアプランを明確にし、組織が支援することで、自立した看護師の育成につながり質の高い看護が患者様に提供できると考えています。

2. スタッフ

保健師、助産師、看護師、准看護師、介護福祉士、サポートスタッフ

3. 業務内容

病院看護業務全般、地域の健康相談、健診業務、子育て支援

4. 2013年度活動

2013年4月より緩和ケア病棟開設の為に病棟編成を変更しました。一般内科病棟を4病棟から3病棟にしたことで、入院数が減少する懸念がありましたが、クリニカルパスの変更や退院調整研修などから在院日数13.1日と0.2日減少させ、1ヵ月内科入院数321名と入院数は前年を維持しています。内科病床はいずれも90%以上の稼働率であり、奥の部屋にも介護度が高い患者様の入院に挑戦し、救急の受け入れを行いました。

がん分野では、2013年4月より緩和ケア病棟を24床で開設しました。12月には全県の看護師支援をいただき、施設基準の届出をし緩和ケア病棟入院料の算定を開始しました。緩和ケア病棟には緩和認定看護師を配置し、緩和ケア外来も開始しています。また、がん化学療法認定看護師が中心となり、乳腺科、消化器外科、消化器内科、呼吸器内科で検討が開始されています。新たな認定看護師として乳がん認定看護師が誕生しました。

看護副部長を中心に職場でHPHの取り組み課題が明確になり、1職場1HPHに取り組み、実践を行いました。HPHの届出を11月に行うことができました。

また、キャリア1卒後3年目研修で、まち歩きと地域包括ケアの講義を受けたことで、退院支援している患者様が実際地域でどのような支援が行われているのか、また患者様の置かれている生活背景にはどのような社会情勢があるのかを知るこ

とができました。病院と訪看や施設などの連携の大切さ、必要性についても学びました。主任以上のキャリア3研修では、「SDHが不健康や健康格差につながる確かな事実(ソリッドファクト)」について、事例を通して深めました。そして、学術運動交流集会と看護学会で、卒後3年目が「生活と労働の中から疾患を捉える」研修での実践報告を行いました。

キャリア4の看護長研修では、キャリア4研修では、「いのちと健康を守る全国センター交流集会」に参加し、「生活と労働の中から疾患を捉える」ことの重要性を学びました。SDHの視点からの取り組みは、法人理念や医療生協の健康観を体現化する取り組みとして促進させる必要があります。

地域連携では2013年から地域の退院調整看護師同士の連携会議を毎月開催することになり、地域統一の退院総括や在宅退院時の薬剤等について話し合いを行っています。2014年より在宅復帰率が診療報酬で求められるようになり、ますます退院調整力が重要となってきます。

残念なことに、QIで褥瘡発生と転倒転落数が増えています。有効な手立てを取ることが不足しています。次年度の課題となります。

看護活動を大学生や看護学生の実習やインターンシップで“見える化”したことで、看護師確保にもつながり、今までで最高の助産師3名、保健師13名、看護師16名を確保し14卒が42名の入職となりました。

2. 外来看護科 I

1. 概要

救急車やWalk inで来院される患者の病状変化に迅速に対応できるように、トリアージ能力の向上、急変時の対応のためのBLS、ICLSの研修を実施し技術の習得に努めました。外来エリアでの不測の状況を見のがさず治療につなげられるように、ERでの対応基準を新たに設定しました。また、緊急での内視鏡処置、放射線検査が円滑に実施されるように職員の育成と体制の確保を実施しました。今年度は大規模災害を想定したトリアージ訓練を実施しました。

2. スタッフ

看護師：20名 准看護師：8名

3. 業務内容

救急室・内科急患：救急対応、外来診療で発生する検査、処置、入院の対応、造影CT
内視鏡室：上部・下部内視鏡検査、大腸EMR、ESD等の検査、緊急内視鏡の対応
放射線科検査：CAG、アンギオ、TAE、気管支鏡、PTCD、ERCP、緊急検査対応

4. 教育研究活動

第14回全国国民医連消化器研究会 演題発表
第44回埼玉県消化器内視鏡講習会 参加
第45回埼玉消化器内視鏡講義講習会 内視鏡機器取扱い講習会 参加
第71回日本消化器内視鏡技師学会 参加
第19回消化器内視鏡技師研究会 参加
PEG・瘻孔の管理 参加
日本救急看護学会セミナー「救急トリアージとフィジカルアセスメント」 参加
看護協会「臨床における救急医療の実践」演題発表

3. 外来看護科 II

1. 概要

慢性疾患を中心とした専門外来エリアと健康増進センターの2つを受け持っています。専門外来では、精神科デイケア、糖尿病フットケア・透析予防指導・糖尿病教室・禁煙外来・看護外来などを受け持ち、外来看護師の専門性を発揮しています。また終末期支援に取り組み、在宅診療や緩和ケア病棟への橋渡しやエンド・オブ・ライフケアにかかわっています。

健康増進センターでは保健師を中心に個別の特定保健指導の実施や保健指導教室の開催を行っています。最近では事業所の職場診断も手がけるようになりました。日常の健診業務は院内・出張健診をこなしています。

2. スタッフ

保健師：6名、助産師：1名、看護師：7名
(糖尿病療養指導師4名含む)、准看護師：1名

3. 業務内容

専門外来エリア：各専門外来介助・看護外来（クリニカルパス及びチェックリストの説明、検査説明、インスリン及びSMBG導入指導、血糖パターンマネジメントなど）、糖尿病フットケア、糖尿病透析予防指導、糖尿病教室主催、禁煙外来、精神科デイケアを担当。

看護面談（終末期支援、問題を抱える患者への面談など）

健康増進センターエリア：院内健診業務（採血、問診など）、日曜健診業務、巡回健診

特定保健指導（積極的支援、動機付け支援）、保健指導教室開催、職場労働安全巡視

班会や健康に関するイベントへの参加

4. 教育研究活動

- ・埼玉民医連学術・運動交流集会演題発表
- ・埼玉民医連看護学会演題発表
- ・禁煙アドバイザー講習会参加、禁煙支援士2名取得
- ・禁煙科学会学術集会参加
- ・糖尿病療養指導学術集会参加、カンパセーションファシリテーター実施資格取得
- ・糖尿病重症化予防（フットケア）研修参加
診療報酬算定の為の修了証取得
- ・日本糖尿病教育・看護学会参加
- ・川口糖尿病カンファレンス演題発表
- ・埼玉県特定保健指導スキルアップ研修会参加
- ・糖尿病学の進歩参加
- ・終末期在宅支援学術集会参加

4. 外来看護科 III

1. 概要

整形外科・外科・眼科・耳鼻科・皮膚科・泌尿器科・化学療法室（8床）の7つの分野を担当しています。患者会「ひまわりの会（乳がん）」「卯月の会（ストマ）」の2つの患者会の運営に携わり、患者へ寄り添い身近な看護師としての役割を担っています。2013年度からがんセンターボードを設置し、乳腺・呼吸器内科・消化器内科・外科の4つの分野で専従薬剤師と連携を図りながらチーム医療に力を入れています。

2. スタッフ

看護師：21名（がん化学療法看護認定看護師1名含む）、准看護師：9名

3. 業務内容

整形外科：骨折・股関節の手術前の管理 骨粗鬆症の生活指導 腰痛体操

外科：がん患者の手術や消化器の手術全般の管理

乳腺外来：切創処置

眼科：花粉症 白内障手術 視力・眼底・眼圧検査 レザー治療 視疑検査

耳鼻科：経鼻咽喉頭鏡検査 花粉症 慢性副鼻腔炎 吸入指導

皮膚科：アトピー皮膚炎 尋常性乾癬 ケミカルピーリング/イオン導入治療

泌尿器：膀胱炎 排尿障害 前立腺腫瘍 膀胱鏡検査 骨盤低筋体操 自己導尿指導

化学療法室：化学療法（日帰り）ポートフラッシュ 輸血療法

4. 教育研究活動

- ・埼玉民医連学術・運動交流集会演題発表
- ・埼玉民医連看護学会演題発表

- ・埼玉県内視鏡技師研修
- ・埼玉看護協会災害支援ナース実務研修
- ・第51回癌治療学会学術研修
- ・マネージメント基礎研修
- ・日本皮膚科スペシャリティーナース講習会参加

5. その他

- ・首都大学東京健康福祉学部パネラー講師活動
- ・地域健康相談・班会活動

5. 透析看護科

1. 概要

当院の透析室は 26 床で入院透析と外来維持透析を行っており、入院患者では、糖尿病外来や腎外来からの透析導入が多く、他疾患での入院が必要な透析患者様に対応しています。患者様のみならず、ご家族とも連絡をとりあい、患者様が安心して透析治療を受けられ QOL の向上に努めています。7 月に透析機器を 25 台更新しました。それまでは 30 床で運用していたため、患者数を減らすことなく午後透析を開始しています。

2. スタッフ

担当医師（腎臓内科・糖尿病医師）：4 名、看護師：5 名、准看護師：4 名、臨床工学技士：11 名（ME 科、医療機器管理業務を兼務）

3. 業務内容

午前透析コース 月・水・金 火・木・土

午後透析コース 月・水・金

毎日の回診は曜日により担当医師が決まっております診察しています。

毎日透析終了後には、その日の全患者についてのミニカンファレンスで、問題点と次回の対応について話し合っています。毎週水曜日には他職種参加での合同カンファレンスを開催しています。

シャント狭窄の患者には 1 泊入院で P T A を行っています。

技士は病棟での緊急透析に備え、交替で待機の体制をとっています。

4. 透析件数

外来患者数 約 49 名

入院患者数 20 名前後

年間透析件数 9144 件

5. 教育研究活動

日本看護協会看護学会学術集団会

埼玉アクセス研究会

血液浄化療法基礎セミナー

全国腎疾患管理懇話会（演題発表）

6. その他

糖尿病、CKD の通院患者や家族を対象に、第 1 回腎臓病教室を開催しました。

6. 手術看護科

1. 概要

特徴、特色

埼玉協同病院手術室は、消化器外科・整形外科・産婦人科・泌尿器科・眼科・呼吸器外科・乳腺外科の 7 科の手術を行っています。手術室は全部で 5 部屋あり、そのうちの 1 室が B C R（バイオクリーンルーム）です。

2013 年度手術件数

手術室オペ件数	2,172
うち全麻	1,445
外科	680
整形外科	820
婦人科	182
産科	100
眼科	230
泌尿器科	160

2. スタッフ

手術室長 麻酔医西川医師 麻酔医：2 名

外科医師：8 名 整形外科医：3 名

泌尿器科医：1 名 産婦人科医：6 名

眼科医：1 名 看護師：13 名 准看護師：1 名

看護助手：4 名 事務：2 名 AW（委託業者）14 名

3. 業務内容

- ・各手術への対応。器械出し業務・外回り業務を行っています。
- ・手術機器の洗浄・滅菌を行っています。
- ・麻酔外来での問診と手術・麻酔説明を行っています。

2013 年度麻酔外来総数 1338 件

- ・術前・術中・術後訪問を行い、術前から術後まで継続して看護を行っています。

4. 教育研究活動

年間教育計画に基づき、年 12 回の部門内学習

会を実施。

年 2 回開催されている埼玉県手術室情報交換会へ出席しました。

- ・2013 年度埼玉民医連運動交流集会 演題発表（1 演題）
- ・2013 年度全国民医連運動交流集会 演題発表（1 演題）
- ・2013 年度医療生協さいたま看護学会 演題発表（3 演題）

7. 看護サポート

1. 概要

私たち看護サポート部は看護業務支援として安全で、快適な療養環境整備を看護師の指導のもと、日々の業務を遂行しています。また看護部門のメンバーとして年間教育計画に基づき職員の力量向上や能力開発に努めています。

スタッフ：38名

2. 業務内容

【病棟早番・日勤・遅番業務】

- ・モーニングケア・検査移送・配膳・下膳・食事介助・排泄介助・療養環境整備
- ・リネン類・衣類リース管理・車椅子の定期点検・補修管理
- ・セミクリティカル・ノンクリティカル洗浄・消毒

【内視鏡業務】

- ・内視鏡ファイバーの洗浄・消毒・管理業務
- ・履歴管理・備品管理

【手術室業務】

- ・手術が安全にスムーズに実施できるように様々なサポート業務を実施

3. 教育研究活動

【2013年度年間教育計画に基づいた学習実績】

- ・接遇マナー研修への参加・医療安全学習会（食事介助・車椅子移乗介助・医療安全の基礎知識・暴言暴力の対応・KYT学習会・ノンクリティカルスキル）
- ・BLS一次救命学習・個人情報基礎知識・環境エコ学習（夏の節電対策）・感染対策学習（職業感染について・感染症の基礎知識・感染対策の基本）
- ・緩和ケアについて学習

【研究活動取り組み】

第2回埼玉民医連学術運動交流会2演題発表

- ・「私たちの医療安全の取り組み」

医療安全の取り組みでは「ひやりハット報告」を強化してきました。医療安全の基礎を学び、医療強化月間に取り組み、職員のひやりハットに対する意識向上や予防処置の考え方の理解を深められました。

- ・「それいけHPH・看護サポート若返り大作戦」

HPHでは職員の意識を高め自らが楽しんでHPHに取り組み、みんなで元気に働き続けることをテーマに毎朝、ストレッチを実施し基礎体力の維持向上に努めています。また地域の方にも健康であり続けていただくために支部運営委員会で取り組みを発表しました。

8. C2病棟看護科

1. 概要

消化器疾患の患者様を対象に医療の提供を行っています。内視鏡検査や治療目的の患者様を多く受け入れています。

2. スタッフ

保健師：7名 看護師：26名

3. 業務内容

消化器を中心とした内科疾患の患者様に対して、医師・看護師・コメディカル（PT、ST、OT、栄養士、MSW）とチーム医療を展開し、患者様の生活の質の向上（QOL）に努めています。内視鏡検査・治療目的の患者様も多く、入院数の多い大腸ポリープ切除術（EMR）は2013年度、385件の受け入れを行いました。稼働病床は48床で、患者様の個々に応じた安全で安心な医療提供をめざしています。

4. 教育・研修・研究活動

- ・第14回全国民医連消化器研究会 演題発表
「緩和ケアにおける一般病棟看護師の現状と課題」

9. C3病棟（産婦人科）看護科

1. 概要

産科と婦人科の混合病棟です。妊娠・出産・産後という周産期の女性や家族へのケアを中心としながら、誕生したばかりの新生児からご高齢の方まで、女性のライフサイクルに深く関わる部門として活動しています。総合病院の産婦人科という特徴から、内科疾患（精神疾患・甲状腺疾患・妊娠糖尿病など）を合併されていたり、社会的背景が複雑な妊産婦も少なくありません。他部門や他職種、地域とも連携しながら幅広く活動しています。

2. スタッフ

助産師：25名 看護師：3名 准看護師：1名
産婦人科外来と病棟の両方を、助産師・看護師で担当しています。

3. 業務内容

2013年度分娩件数：484件

うち帝王切開：96件（19.83%）

婦人科では周手術期の患者様や切迫流産で安静入院の患者様のケア、2013年度は女性の眼科手術患者34件、他科女性患者9件の受け入れを行い、看護活動の幅が広がってきています。

4. 教育研究活動

- ・全日本民医連学術集会「妊娠期からの虐待予防」
- ・母性衛生学会 ポスター発表
- ・埼玉県看護協会「新人助産師養成講座」講師派遣
- ・「命の授業」講師活動

5. その他

助産師・看護師とも得意分野を伸ばしながら、

妊産婦とその家族、患者様を中心に考えた看護実践をしています。産婦人科開設当初から続く「うぶ声学校」、助産師が行う「いのちの授業」、助産師外来「ひだまり」、マタニティ・ヨガ、育児を手伝う世代へ向けた「じいじ・ばあば教室」や子育て教室も行っていきます。小児科や地域とも連携し、とぎれない子育て支援を心がけています。

10. C3病棟 (小児科) 看護科

1. 概要

小児科外来と病棟で連携している部門です。主に小児科、新生児から中学3年生までの小児看護をしています。外来では一般外来、乳児健診、予防接種の他に、小児心理外来、発達外来、アレルギー外来、小児循環器外来、腎外来の専門外来があります。

2. スタッフ

助産師：1名 看護師：10名 准看護師：1名
保育士：1名

小児科外来と病棟の両方を担当しています。

3. 業務内容

肺炎や敗血症などの感染症、喘息、川崎病、ネフローゼ、アレルギー検査入院などの小児科の入院の他に、小児の整形外科周手術期の入院21件、P S G (睡眠時無呼吸発作) 検査入院51件、他科患者6件の受け入れを行い、看護活動の幅が広がってきています。

小児の入院では対象となるお子様だけでなく、家族へのケアも大切に考えて看護しています。また、それぞれの月齢や年齢に合わせ、発達も考え保育士とも協力しながらケアしています。

4. 教育研究活動

- ・小児医療研究発表会
- ・子育て教室、ベビーマッサージ、喘息教室、班会活動

5. その他

プレパレーションやディストラクションを活用し、子どもの年齢や発達段階に応じ、検査や病状説明に力を入れています。入院している子どもに対し、子どものストレスが発散できるようにキアニスドールも活用しています。

毎週金曜日は川口市小児夜間救急当番医として、地域での役割を担っています。

11. C4病棟看護科

1. 概要

C4病棟は、がんの患者様が入院される緩和ケア病棟です。

2013年3月28日開設し1年が経過しました。急性期病院の中にある緩和ケア病棟として、内科や外科の緩和ケア対象の方を受け入れてき、また、大学病院やがんセンターからの紹介で病院周辺で暮らしている患者様の受け入れも行ってきました。転科依頼件数273件・入院患者数205件(院内—90件・院外〈在宅含む〉—92件・転院23件)……2014年3月末までの状況。

症状緩和・苦痛緩和・精神的支援を行い、残された日々をその人がその人らしく過ごせるように援助しています。お看取りをした患者様(130件)も多くいますが、症状が改善されて在宅調整を行い、ご自宅での生活を送っている患者様もあり、在宅と連携して支援してきました。

開設当初、未経験のスタッフも患者様やご家族からさまざまなことを学び、旅立ちへの不安を訴える患者様には、そっと寄り添い共に泣き傾聴し支援できるまでに成長しています。

患者様のその時の言葉を大切に支援し、「自宅に帰りたい・返したい」には早急に在宅支援し、「結婚式を見せたい」の声には、夕方までに準備に協力し、とスタッフはタイムリーに行動し患者様・ご家族の今を大切にしてきました。

また、薬剤師の方によるフルート演奏や組合員さんによる琴の音色が病棟内に響き渡り、患者様の癒しの時間を演出することができました。毎月行われる食養科緩和チームのティータイムは患者様・ご家族にくつろぎの時間を与えてくれたと思います。様々な職種により支えられている病棟だと実感した一年でした。

今年度は、緩和ケアの業務見直しを頻回に行い、

患者様に迷惑がかからないように早急に改善してきました。また、緩和ケアの研修に個々が参加したり、病棟内で緩和ケア認定看護師の講義を受け看護師の育成に力を入れてきました。

今後の課題として、緩和ケア病棟をもっと知っていただき、病棟の利用率を上げていくことだと思っています。

2. スタッフ

緩和ケア認定看護師：1名 看護師：12名
保健師：2名

3. 業務内容

- *緩和ケア病棟入院判定会議……毎週火曜日
- *緩和ケア入院相談外来……月曜日・火曜日14時～
- *病棟回診……毎日
- *病棟カンファレンス……水曜日14時～
- *医師・看護師カンファレンス……月曜日～土曜日

4. 教育研究活動

- ・埼玉サイコオンコロジー研究会
- ・全日本民医連学術交流運動集会
- ・埼玉民医連学術運動交流集会 2演題
- ・看護学会
- ・院内H P H交流集会

12. C5病棟看護科

1. 概要

C5病棟は、呼吸器内科・総合内科の混合病棟です。

肺炎などの急性疾患、慢性呼吸器疾患、肺癌・血液系の化学療法を受ける患者様等の受け入れをしています。今年度は、気管支鏡介助者の育成と化学療法に対応できる看護師の育成に力を入れてきました。

また、ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、超過勤務が軽減できるよう業務改善に取り組んできました。

2. スタッフ

看護師：25名 保健師：5名

3. 業務内容

- *気管支鏡検査……水曜日・金曜日
- *病棟回診……月曜日
- *病棟カンファレンス……火曜日 16時～
- *コメディカルカンファレンス……金曜日 16時～
- *看護カンファレンス……月曜日～金曜日 11時～

4. 教育研究活動

- ・埼玉県看護協会看護学会 演題発表
- ・埼玉県看護協会 認定看護管理者研修ファーストレベル



13. D2病棟看護科

1. 概要

変形性関節症や脊椎、骨折や外傷などの疾患が多く、手術や急性期の治療・処置を必要とする患者様の受け入れをしています。

2. スタッフ

看護師：29名 准看護師：1名

3. 業務内容

周手術期看護を中心とした病棟業務。

13年度の手術件数は703件です。

変形性股関節症（THA）193件

整形手術全件の27.45%

変形性膝関節症（TKA）99件

整形手術全件の14.08%

当診療科では「コンピュータ手術支援用ナビゲーションシステム」を用いた人工関節手術を行っています。さらに最近では両側手術が増加しているのも特徴です。

「コンピュータ手術支援用ナビゲーションシステム」とは：

- ・人工関節置換術を行う際、CTの画像情報を利用して、手術計画の立案とシミュレーションを短時間で行うことができます。
- ・車のナビゲーションのように高い精度で手術器具を誘導し、人工関節は計画された最適な位置へ設置されます。

病棟内歩行リハビリを実施：今年度は理学療法士のリハビリ以外にも時間をもうけ、看護師の見守りの元歩行練習を実施した。音楽をかけ毎日15分間楽しくリハビリを実施しています。

4. 教育研究活動

年間教育計画書に基づき活発に実施しています。

新人看護師には手術室の協力のもと手術見学も実施しています。

学会認定自己血輸血看護師、認知症ケア専門士も在籍しており、整形看護師として知識や技術を高め合い日々奮闘しています。

- ・2013年度埼玉民医連運動交流集会 演題発表（1演題）
- ・2013年度医療生協さいたま看護学会 演題発表（1演題）

14. D3病棟看護科

1. 概要

消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、一般外科、泌尿器外科、皮膚科の混合外科病棟です。

2. スタッフ

保健師：9名 助産師：1名 看護師：21名

3. 業務内容

外科手術は、がん腫瘍切除術、腹腔鏡下胆嚢摘出術、鼠径ヘルニア手術が多く、乳がんの患者様の受け入れが増加しています。各科手術の術前・術後の看護を行っています。病床51床のうちリカバリ室（回復室）4床があり、全身麻酔下術直後の患者様の周手術期の看護をしています。

術前・術後の化学療法を受ける患者様の受け入れもしており、入院管理にて初回実施後は外来化学療法へ移行しています。

当院緩和ケア病棟開設に伴って、患者様、ご家族様の意向に沿い、症状緩和、看取り、在宅調整等を緩和ケア病棟と連携して、がんターミナルの患者様の看護もしています。

4. 教育・研修・研究活動

- ・乳がん看護認定看護師：第20回日本乳癌学会 参加、第9回日本乳がん看護研究会 セミナー参加

*乳腺科外来での診療の補助、カウンセリング、術前後のケア、化学療法等

乳がん治療の分野で専門性を発揮しています。

- ・自己血輸血学会認定看護師：第2回埼玉自己血輸血研修会 2名参加、第27回日本自己血輸血学会学術総会 演題発表
- ・第55回日本自己血輸血学会教育セミナー 演題発表

*安全な院内自己血輸血のため、自己血採血の中央化の取り組みにおいて自己血輸血学会認定看護師2名が活躍しています。

- ・2013年埼玉民医連 学術運動交流集会 6演題発表
- ・2013年埼玉民医連 看護学会 5演題発表
- ・常勤看護師全員がキャリアアップラダーに基づき研修を行っています。
- ・埼玉県看護協会主催研修会へ参加

15. D4病棟看護科

1. 概要

D4病棟はICU4床と、循環器・糖尿病・腎臓病・脳梗塞や脳出血などの血管障害の患者様が入院されている総合内科46床の病棟です。

今年度よりD4病棟でICUが稼働となり、多職種で患者様に関わる体制を整えてきました。ICU回診を継続し質の向上を目指しています。また、医師の初期研修の場として、医師・看護師が共に学び合う環境作りを目標に活動しています。

2. スタッフ

保健師：11名 看護師：25名

3. 業務内容

ICU→救命と生命維持の安定・回復を図るため、集中的な治療・管理と看護援助を行っています。

ICU回診……月曜日～土曜日 9時30分～
参加スタッフ：医師・看護師・管理栄養士・臨床工学技士・薬剤師・リハビリスタッフ

D4病棟→狭心症でPCI（経皮的冠動脈形成術）・CAG（心臓カテーテル検査）のために入院する方、不整脈によりペースメーカーを挿入される方、糖尿病コントロール入院される方や合併症により脳梗塞を発症された方、慢性腎不全で透析導入目的のために入院される方等の受け入れを行っています。

介護度や重症度が高い中、多くの入院を受け入れられるようにコメディカルと連携し退院調整しています。

4. 教育研究活動

- ・BLS ・ACLS
- ・日本静脈経腸栄養学会参加

16. D5病棟看護科

1. 概要

D5病棟は回復期リハビリテーション病棟です。

2. スタッフ

看護師：18名 介護士：9名
セラピスト：25名

3. 業務内容

急性期治療の終了した脳卒中や骨折・関節疾患の手術後の患者様に対して、身体機能や日常生活動作の能力の向上、在宅生活や社会復帰を目標に、集中的にリハビリテーションを実施します。

2013年、急性期病院における回復期リハビリ病棟として、たくさんの患者様を受け入れようと高占床率にこだわって病床運営をしてきました。

急性期病院における回復期リハビリ病棟として、治療を終えた患者様を1日でも早く受け入れ「その人に寄り添い、その人らしい生活の再構築を支援する」ため、私たち専門職がチーム一丸となって日々取り組んでいます。

4. 教育研究活動

- ・埼玉民医連学術・運動交流集会 演題発表

17. 薬剤科

1. 概要

特徴：医薬品の適正使用

の推進による治療効果の向上と副作用の防止による患者利益への貢献、病棟における薬剤

(注射剤、内服剤等)に関するインシデント・アクシデントの減少をめざして、薬剤師の専門性を活かしたチーム医療の中で責務を果たせるように業務に取り組んでいます。

特色：①化学療法専従薬剤師を配置・カンサーボードの定期開催

『がん診療機能を充実させる』という病院目標を受け、3ヵ月の外部研修に参加しました。

カンサーボードの準備・運営を行い、定期開催に関わっています。

②プレアボイド報告 昨年度と比較し報告件数が倍増

日本病院薬剤師会で実施している薬剤師が薬物療法に直接関与し、患者の不利益(副作用、相互作用、治療効果不十分など)を回避あるいは軽減した実例、成果が対象。

③病棟薬剤業務実施加算の算定

昨年度より算定開始。今年度は質を上げる取り組みを実施しました。

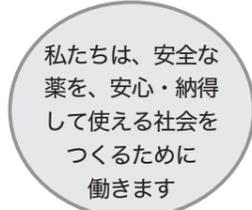
④後継者育成 高校生1日薬剤師体験37名

実務実習受け入れ：Ⅱ期2名、Ⅲ期1名
インターンシップ受け入れ：2名

2. スタッフ

2013年12月現在 薬剤師25名・パート2名・助手4名

資格：日本病院薬剤師会認定薬剤師2名、日本薬剤師研修センター認定薬剤師5名、糖尿病療法指導士3名、漢方薬・生薬認定薬剤師2名、抗



菌化学療法認定薬剤師2名 NST専門療法士1名、認定実務実習指導薬剤師2名

3. 業務内容

・調剤室

○外来及び入院調剤

○処方箋監査

・症状にあった薬かどうか／・年齢と体重からの薬の量／・副作用／・薬の飲み合わせ／・血液検査異常など検査値の確認／・薬の数が合っているかの確認 など

なにか問題があれば、その都度、医師と相談して薬を決めています。

・薬事・D I室

○薬品発注及び検品

○薬品使用状況の把握と適正在庫の運用管理

○麻薬、向精神薬、毒薬、抗がん剤、その他特殊薬剤の在庫管理

○医師や他職種からの医薬品情報対応

○D Iニュースの発行 12回(右頁参照)

内視鏡治療時の抗血栓薬の休薬期間一覧、緑内障と薬、エプツールによる視力障害 など

○医薬品集の改訂作業

○薬事委員会の資料作成

・薬の使用評価(薬の効果、副作用、値段など総合的に評価)

・医薬品情勢の最新情報を院内に発信(ジェネリック薬品、新薬、販売中止品、副作用など)

○副作用報告の情報収集及び厚生労働省・全日本民医連への報告

・過去の薬害問題をふりかえり、二度と起こさせない為の努力

○地域の院外薬局との薬業連携(処方箋内容の問合せ)

・薬剤管理指導業務(右頁グラフ参照)

○病棟服薬支援

・内服薬、点滴の説明や副作用の聞き取り

・検査データ確認

○配薬カートへの配薬

○持参薬の確認及び管理

・持ち込み薬の管理(入院前から飲んでいた薬・健康食品・サプリメントの確認)

○チーム医療の一員としてカンファレンスへの参加
・注射セット室

○注射薬個人別取り揃え

・注射薬の準備と適正使用のチェック(量、点滴速度、濃度、カロリーなど)

○抗がん剤の調整・レジメン管理

・複数名の薬剤師による事前チェックと安全キャビネットによる混注

・ベッドサイドに行き、薬剤に対する不安や副作用の早期発見などの取り組み

○院内特殊製剤の製造及び管理

○TPN調整業務

・クリーンベンチ(無菌状態にできる装置)で混注後の安定性・配合変化を考え混注

4. 教育研究活動

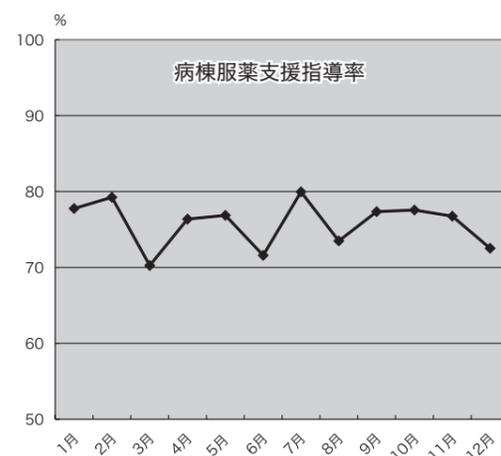
《外部発表》

・日本病院薬剤師会関東ブロック第43回学術大会 1題

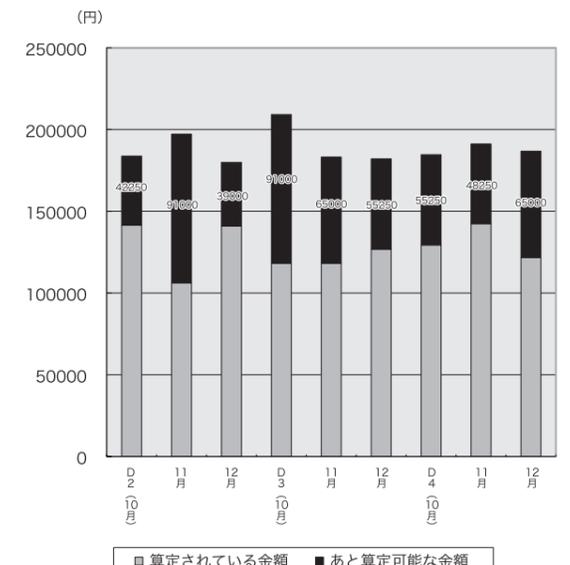
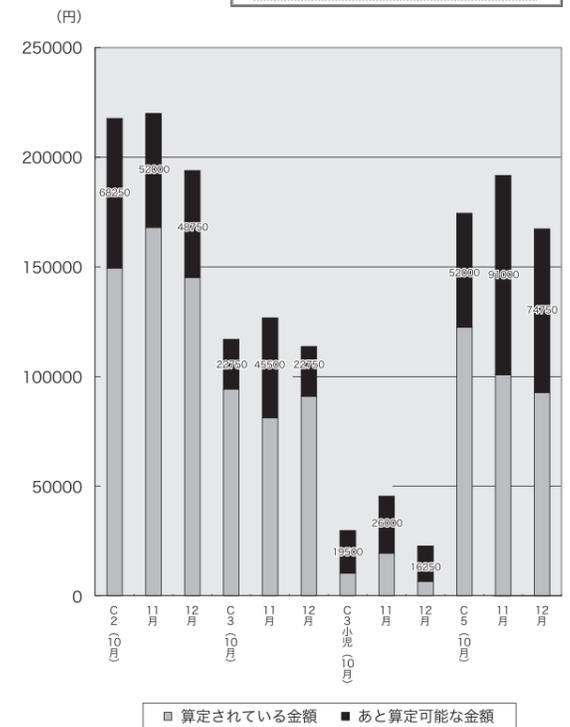
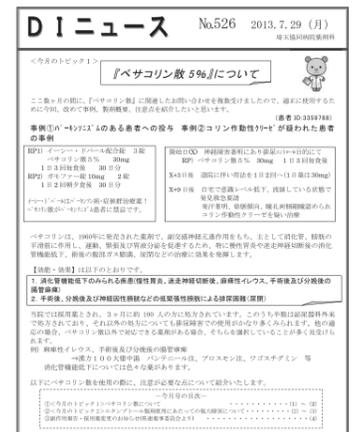
・第11回全日本民医連学術・交流集会 2題

・第30回全日本民医連循環器懇話会 1題

・その他



薬剤管理指導件数をあげるため、10月より分析を行い、指導率が昨年度と比較して向上しました。



18. 検査科

1. 概要

2013年は新入職員を1名迎え、定年退職から非常勤への業務形態の移行が1名ありました。

Mg、Zn、感染症関連項目、24時間携帯型血圧測定を新規に開始しました。

新規に購入した機器は自動染色機（サクラ社製・プリズマ）があります。更新した機器はABI、CGM、自動包埋装置です。

◆臨床検査専門医の立場から

臨床検査医は、臨床検査技師と協力して、検査室の管理・運営と、検査のクオリティーコントロールを担っています。加えて、検査医学を含む学際的分野における教育に寄与し、医師およびコメディカルスタッフのコンサルタントとして機能しなければなりません。

新知見は加速度的に増加しており、自らの能力不足にへこむこともしばしばですが、検査室スタッフに支えられて何とか“検体検査管理加算IVにふさわしい検査専門医”であり続けたいと思います。

臨床検査科 部長 村上純子医師

◆臨床検査技師の立場から

患者様やその家族、コメディカル、病院経営者からチーム医療の一員として感染対策・医療安全・栄養サポート・患者教育・地域の保健医療活動・コンサルテーション業務に携わることが求められているフィールドの広い職種と感じております。2013年は保健医療活動をHPHの理念をもって、コンサルテーション業務に必要な能力開発としてR-CPCに取り組んできました。R-CPCでは、検査データから患者様の病態を解析します。検査技師に求められる「臨床推論能力」の涵養を目的としています。

検査科 科長 大久保智子

2. スタッフ

部長 村上純子

日本臨床検査医学会認定臨床検査専門医

日本輸血細胞治療学会認定輸血専門医

日本血液学会認定血液専門医・指導医

日本内科学会認定内科医

ICD

臨床検査技師 36名 (常勤 25名 非常勤 11名)

細胞検査士 4名 国際細胞検査士 4名 認定超音波検査士 (消化器) 4名 認定超音波検査士 (表在) 4名 認定超音波検査士 (心臓) 1名

緊急検査士 3名

2級検査士 (血液) 3名 2級検査士 (病理) 2名 2級検査士 (細菌) 1名 一般臨床検査士 1名

3. 業務内容

生理学的検査、血液学的検査、生化学的検査、免疫学的検査、一般検査、輸血関連の検査、細菌学的検査、病理学的検査を行っています。

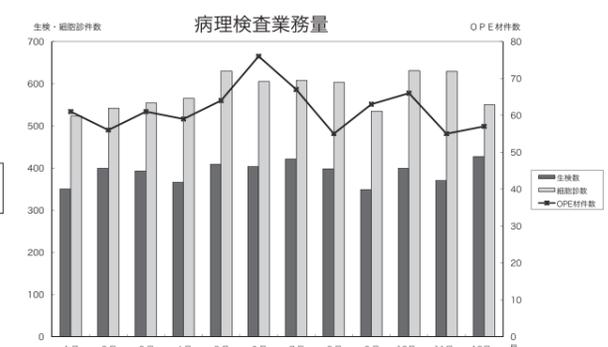
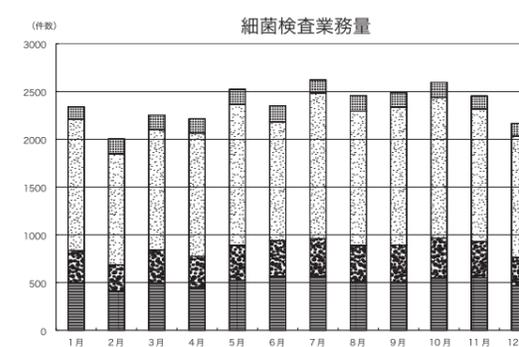
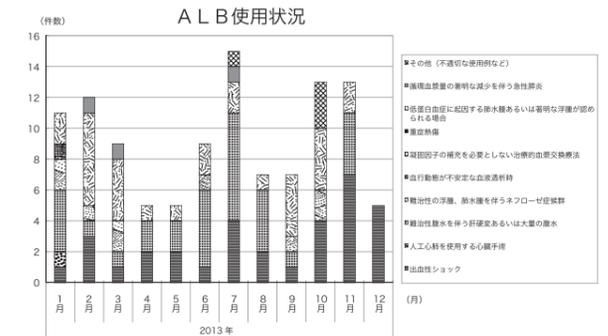
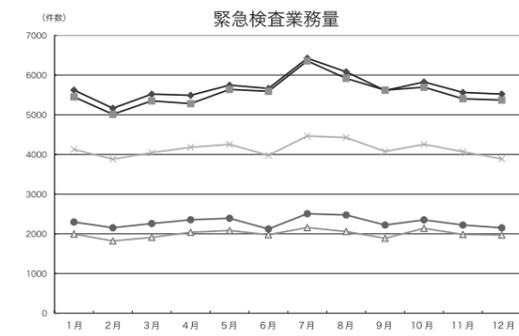
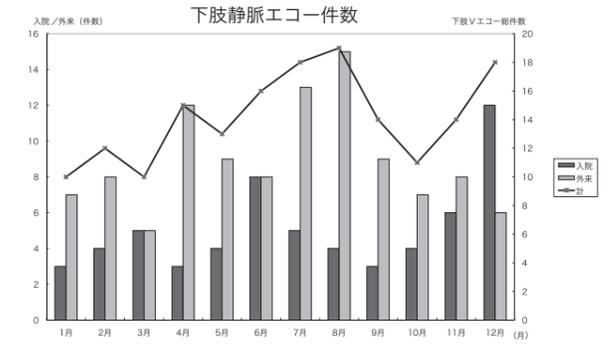
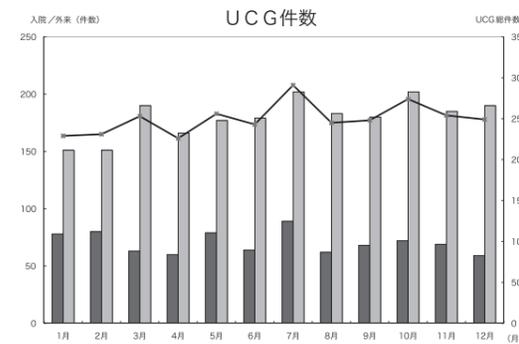
感染症関連項目を院内で開始したことで輸血後感染症検査にも精力的に取り組んでいます。

2012年に比べ超音波検査、病理検査室業務は増加傾向にあります。緊急検査室、細菌検査室の業務は減少傾向にあります。

4. 教育研究活動

◆発表

- ・第87回 日本感染症学会学術講演会 『当院における血液培養検査の現状について』ポスター
- ・第14回 日本検査血液学会学術集会 『検査血液学会提唱白血球分類による好中球の目視比率について』(第1報)
- ・第14回 日本検査血液学会学術集会 『検査血液学会提唱白血球分類による好中球の目視比率について』(第2報)



- ・第60回日本臨床検査医学会学術集会 『下肢静脈エコー検査を用いた深部静脈血栓症例の検討』
- ・第60回日本臨床検査医学会学術集会 『分娩数が多い地域の基幹病院における不規則抗体の検出状況』
- ・第60回日本臨床検査医学会学術集会 『EVANS症候群を併発し診断に苦慮した血管免疫芽球形T細胞性リンパ腫』
- ・その他、法人内外で発表を行っています。

19. 放射線科・放射線画像診断科

放射線科

1. 概要

2011年4月より吉田英夫医師(常勤放射線科医師)が放射線科部長として着任し、画像診断、IVRを担当しています。画像診断では、常勤換算0.5名の非常勤医師を含め、ほぼ全ての画像について読影を行っており、画像管理加算を取得しています。IVRでは、消化器科医師と共に、肝癌に対するTAEをはじめ、止血術、BRTOなど各診療科の要請に積極的に応えております。

また、CTやMRIにおける造影検査の増加に伴い、造影剤による副作用や皮下への漏れの報告も増え、放射線科医師として対応の指示を行っています。

2. スタッフ

部長 吉田英夫 放射線科専門医
放射線診断専門医

放射線画像診断科

1. 概要

各診療科から依頼される各種検査および健診を中心に業務を行っています。画像を提供するだけでなく、診療放射線技師として医師による画像診断の補助に積極的に関わることを目指し、

CT、超音波検査、上部・下部消化管造影

設置機器	
一般撮影装置	4
乳房撮影装置	1
ポータブル撮影装置	3
X線TV装置	4
CT	1
MRI	2
Angio	2
Echo	3
ESWL	1

検査では技師コメントを読影レポートに記載しています。また、画像診断の結果が確実に診療に活かされ、見落とされることがないように、放射線技師が読影レポートの内容と受診状況を確認し、必要に応じて主治医に報告するフォロー体制を確立し、毎日の業務としています。

保有している機器は左下のとおりです。

2. スタッフ

診療放射線技師常勤 19名 非常勤 1名
(科長1名、主任1名、副主任1名を含む)
事務 2名

3. 実績

2013年1月～2013年12月 統計

放射線検査数		健康診断検査数	
一般	58,552	胸部	22,844
TV	1,660	MDL	8,549
エコー	7,631	腹部エコー	3,308
CT	14,539	乳房エコー	476
MRI	6,108	マンモグラフィー	3,428
Angio	617	DEXA法	627
		胸部CT	45
		内臓脂肪CT	66

4. 教育・研究活動(下・右頁参照)

5. その他

2013年10月に医療被ばく低減施設認定審査を受審。

【学会発表】

川口医師会学術 2013年6月28日

演題	演者
Elastgraphyが有用であった両測乳房内病変	新島正美

全日本民医連学術運動交流集会 2013年10月4日

演題	演者
医療被ばく低減施設に向けた取り組み	酒井利幸
乳房診療におけるチーム医療の構築と実践	新島正美

放射線技師会第二地区勉強会 2013年10月17日

演題	演者
MMGとUSにおける石灰化病変の抽出についての検討	新島正美

【取得・認定一覧】

施設取得認定

検診マンモグラフィ認定施設

個人取得認定

放射線管理士	酒井晶子 神山和明
放射線機器管理士	酒井利幸 酒井晶子 神山和明
検診マンモグラフィ撮影	新島正美 戸次美紀 石川佑子
診療放射線技師	伊藤紘子 倉澤愛実
超音波検査士(消化器)	新島正美 成田恵里子
超音波検査士(体表臓器)	新島正美 成田恵里子
胃がん検診専門技師	松本 茂
埼玉放射線技師会胸部認定	大谷祐貴 神山和明

【学会所属人数】

所属学会	所属人数
放射線技師会	12
日本乳腺・甲状腺超音波学会	1
日本超音波検査学会	9
循環器画像研究会	1
乳癌検診学会	1
日本消化器癌検診学会	3
全国循環器撮影研究会	1

20. リハビリテーション技術科

1. 概要、特徴、特色

入院患者様に対して、早期からのリハビリテーションの開始とリハビリテーションが必要な方への実施(介入率増加)に継続して取り組んできました。総合内科病棟では午前中の医師からのリハビリ指示に対し、午後からリハビリが開始できるよう業務改善を行いました。

外来では、早期退院後のフォローとして特に整形外科疾患の患者様に対し、退院後もリハビリを継続しました。2012年延べ外来患者数2381名から、2013年延べ外来患者数3044名となり、延べにして663名の方に多くリハビリを実施させていただきました。

2. スタッフ(2013年12月現在)

理学療法士 30名 作業療法士 11名
言語聴覚士 6名 事務 1名

3. 業務内容

- ・入院・外来リハビリテーション
- ・他職種カンファレンス
- ・家屋調査(退院前訪問指導)
- ・自主トレーニング指導(退院時指導)
- ・介護保険サービス移行に関する相談
- ・保健予防活動(依頼数25件)
- ・患者会活動 のびる会担当(脳卒中患者会)
- ・後継者育成(理学4名、作業3名、言語1名)
- ・高校生専門職体験(リハビリ職体験18名)

4. 教育研究活動(外部発表)

- ・第22回神経リハビリテーション研究会 2演題
- ・第19回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 1演題

21. 食養科

1. 概要

患者様に安心して、おいしい食事を楽しんでいただくため、徹底した温度・衛生管理のもと、家庭的で心の通う食事提供をめざしています。また、直営で運営しており、調理師も積極的に病棟へ足を運び、患者様の嗜好や状態に添うことを大切にしています。

献立は4週間のサイクルメニューと毎日の選択メニューを実施しています。なかでも季節献立と月1回の行事食は人気が高く、患者様から多くの感想が寄せられています。

その他、おやつワゴンサービスやバイキングなど、病棟に合わせたサービスも実施しています。給食運営は調理師が主体的にすすめており、満足度調査や病棟訪問の声を、献立改善や新サービスの展開につなげています。

管理栄養士は、入院中、栄養状態や嗜好を把握し、チーム医療の一員として栄養管理を行っています。NSTをはじめ、糖尿病・消化器・循環器・呼吸器・緩和ケア・褥瘡など各チームにも参画しています。

2. スタッフ

管理栄養士 常勤10名 非常勤5名

栄養士 常勤1名

調理師 常勤13名 非常勤3名

調理員 非常勤11名

資格：NST専門療法士1名

健康運動指導士3名

3. 業務内容

(フードサービス)

・食数 750食/日、配膳時間 朝7:30 昼13:00 夕18:00

・ニュークックチル方式による給食システム

・サイクルメニュー 28日、選択メニュー 3食

毎日 全体の20%実施

・調理師による病棟訪問 月60件、特食加算比率 45%

・行事食(月1回)、クックサーブ(週1回)、小児科クッキー(週1回)

・産科祝い膳(週2回)、誕生日ケーキ、バイキングなど実施

・給食日より「ごちそうさま」の発行 年12回

・食数管理、献立・発注管理は管理栄養士が担当(食事相談)

外来食事相談：月平均336件

多職種と連携して糖尿病教室や透析相談、乳児健診、乳幼児のアレルギーの相談を行っています。

特定保健指導：利用者様のニーズに合わせて、食生活相談をしています。

在宅訪問食事相談：年21件

経管栄養の方を中心に相談しています。

入院食事相談：相談実施率 1回目94%

2回目73%

患者様にご自宅での食生活を踏まえ、退院に向けた食事相談を実施しています。

(その他)

・院内レストラン「レストラン虹の森」の運営をしています。

夜勤明けの朝食にサラダバーを開始しました。健康を意識し、自らが管理できるように、店内では、健康食を提案しています。

・備蓄食 災害に備えて、食品、水を常備、管理しています。

常食：400食×3食/日×3日分=3600食、水

400人×2L/日×3日分=2400L

ミキサー・流動食 20食×3日分

4. 教育活動

外部発表

・全日本民医連第11回学術運動交流集会

・第10回健康づくり学会

・第14回民医連消化器研究会

22. ME科

1. 概要

特徴、特色

医療機器の高度化が進む中、医療機器の臨床・工学の専門としての臨床工学技士の役割は大きいと常日頃感じています。

昨年度からは月水金の午後透析も再開し、多くの患者様を受け入れ、それぞれのニーズにあった治療を目指しています。

機器管理分野ではOPE室内にMEが常駐し、機器の点検を行うことで安全、スムーズに業務が遂行できるようにしています。

2. スタッフ

臨床工学技士：10名

透析療法認定士：6名

呼吸療法認定士：3名 MDIC：1名

3. 業務内容

慢性腎不全における透析療法、CHDFやエンドトキシン吸着、LDL吸着やL-CAP療法、腹水濾過濃縮療法などの特殊透析療法を行っています。

また、院内ME機器の中央管理、保守点検業務、ペースメーカー業務、OPE業務などを行っています。

4. 教育研究活動

年間教育計画に基づき、年12回の部門内学習会を実施。

・第88回日本医療機器学会大会 演題発表(1演題)

・第37回全国腎疾患管理懇話会学術大会 演題発表(1演題)

23. システム管理課

1. 概要(特徴、特色)

電子カルテをはじめとして、病院内の医療に関わる記録や事務的な仕事のほとんどがコンピュータで行われており、病院内にコンピュータが約500台あります。そのコンピュータシステムの運用・管理を行っているのが、システム管理課の役割です。

大きな役割は4点あります。

1) 情報システムの適切な運用を行います。

病院の医療・経営活動の多くが、電子カルテ・オーダーリング・医事会計システムをはじめとしたコンピュータによる病院医療情報システムで運用されています。

医師をはじめとした医療従事者が、患者様への医療の提供を適切に行うことができるように情報システムの安定的稼働を図っています。障害の発生を未然に防ぐ手立てを行い、障害時はすみやかに復旧ができるように最善を尽くしています。

2) 医療の安全性に寄与し、診断治療をバックアップできる情報システムを提供しています。

病院情報システムが、患者様の「自己決定」に役立ち、医療の安全性に寄与し、診断治療をバックアップできる情報システムを提供できるようにしています。情報システムが業務の合理化・効率化をすすめ、医療従事者が患者様への質の高い医療サービスの提供ができるようにしています。

3) 医療経営情報の把握できるシステムを開発し、医療の質の向上に貢献します。

電子カルテなどの医療情報システムのデータや経営情報を活用し、医療・経営活動をまとめ、適切な提言(医療経営統計・クリニカルインディケータ)ができるシステムを作成し、医療の質の向上

と経営活動の改善ができるようにしています。

4) 資質の向上に努め、法令遵守をすすめます。
保健医療福祉専門職の一員として医療情報を安全かつ有効に活用・提供ができるように知識・技能の習得に努め、資質を高める努力を行っています。診療情報とシステム管理に関わる関係諸法令と法人規定をしっかりと学び遵守し、必要な諸規定の運用と整備をすすめています。

2. スタッフ (2014年4月1日現在)

常勤：3名
資格：医療情報技師 (2名)

3. 業務内容

今年度、次のような対応を行いました。

〈コンピュータ環境の整備〉

①災害時・障害時に強いシステム構築

バックアップのないインターフェースや部門システムを「仮想サーバ環境」でのシステム構築を図りました。

看護勤務表・S A S・番号呼び出し・e-ラーニング・カルテ I F の環境を設置

②個人情報保護のシステムを強化

I フィルター (インターネットの閲覧制御) の設定を強化し、W e b メール規制を設定。

メールフィルターを設定し、送受信のログ履歴管理と、送信ファイルの暗号化の設定ができるようにしました。

7月にパスワード変更キャンペーン実施し。確実なログイン認証をすすめました。

③W i F i の環境を設定し、院内で i P A D などのタブレット端末で情報収集ができるようにしました。

〈電子カルテ更新に向けた準備〉

2014年9月に電子カルテ更新を行います。それに向けたプロジェクトの事務局機能を担っていま

す。
次期電子カルテでは次のようなことが可能になります。

- ・注射の三点認証など、より安全なシステム運用が図られます。
- ・チーム医療がすすみます。
- ・バーコードに実施入力などで業務の効率化が図られます。
- ・DWHなどの機能を活用して、今までよりも効果的に医療情報の収集、統計処理が可能になります。

〈業務をより効果的に進めるための課題〉

①H P H 推進のために、喫煙情報が電子カルテ基本画面で入力できるようにし、そのエビデンスをだすことができるようになり、H P H 交流集会で発表しました。

②今までの「がん化学療法システム」を改善し、現場での活用が広がり、H B V D N A リアルタイム P C R などのフォローが確実にできるようになりました。

〈システム処理依頼書〉

2013年度で、210件のシステム処理依頼に対応しました。
帳票の設定内容変更、新たなシステム作成、データ処理、統計依頼……など。

4. 教育研究活動

①外部研修

国際モダンホスピタルショー (2013. 7. 17 ~ 18)

2名が参加し、文書システム、画像ファイリングシステム、自動精算機、番号表示などのシステムを見学し、電子カルテ更新に向けた論議に反映させました。

電子カルテ更新に向け、病院見学・交流をすすめました。

3名がプロジェクトメンバーと一緒に7病院を見学しました。

②院内研修

医療安全に関する学習

- ・e-ラーニング「暴言・暴力の対応について学ぼう」「ノンテクニカルスキルとは何か？」実施

感染対策に関する学習

- ・e-ラーニング「感染対策学習」「協同病院におけるインフルエンザ対策」実施

個人情報に関する学習

- ・e-ラーニング「個人情報学習」実施
3名ともすべて終了。

24. 診療情報室

1. 概要

特徴、特色

診療情報室の役割は、大きく分けて3つあります。〔1〕医療記録・情報の管理と、〔2〕これらの情報を活用した医療の質向上につながる質指標の測定や各種統計の作成、〔3〕診療支援や学術研究活動の支援です。データセンターとしての機能を高めるため精度管理、学習を重点的に取り組みました。

〔1〕医療記録・情報の管理には、適切な記録とするための監査業務 (量的点検と質的点検)、情報活用条件となる診療情報のデータベース管理、過去医療記録の保管管理 (外部保管) があります。過去記録の取り寄せは前年の6割、2013年は監査チームによる質的点検は1回のみでした。

〔2〕各種統計作成、医療の質指標の測定としては、疾病統計、死亡統計、手術・処置統計などの退院患者統計の作成や約360項目におよぶ医療の質指標を定期的に収集・測定するほか、学会等への実績報告、疫学調査などにも随時対応しています。対応数は前年とほぼ同じですが、データベースの作成、統計解析など複雑な処理を伴う調査が増加しました。

〔3〕学術研究活動の支援・診療支援では、認定・専門資格の取得や維持に必要な症例検索や教育施設認定関連の症例データベースへの登録、院内感染サーベイランス (監視) や院内がん登録、手術症例登録などのほか、検索した情報の分析・加工などの支援も診療情報室の業務として行っています。地域がん登録は発生から6ヵ月のサイクルで報告できるようになりました。

2. スタッフ (2014年1月1日現在)

常勤 3名 非常勤 5名
資格：診療情報管理士 (3)、医療情報技師 (1)、

薬剤師 (1)、臨床検査技師 (1)、社会福祉士 (1)
認定：院内がん登録実務初級者研修修了 (1)、院内がん登録実務初級修了者研修 (1)

A I S Certification of Completion (1)、医師事務作業補助者研修修了者 (5)、がん治療学会データマネージャー (1)、クオリティマネージャー養成講座修了 (1)

3. 業務内容

①業務上の変化

医師の退院時要約作成補助対象を拡大しました。

②業務実績

過去記録取り寄せ・貸し出し 299 件 (前年比 61%)

病歴登録管理 7722 件

死因登録 384 件 (入院 291、外来 42、在宅 50、併設老健施設 1)

診療情報検索・調査・提供 129 件 (学会疫学調査等 40、その他 89)

主治医意見書作成支援 3135 件 (主治医意見書 1664 件、訪問看護指示書 1474 件)

地域がん登録 1105 件

N C D登録 711 件

ニュース発行 7 回

カルテ開示・法に基づく照会 45 回

4. 教育研究活動

①外部研修

・院内がん登録実務初級者研修 (前期 8 / 20 - 21、後期 10 / 29 - 30) 1 名

・埼玉県地域がん登録実務者講習会 (7 / 11) 1 名

・院内がん登録実務初級修了者研修 (国立がんセンター 9 / 18) 1 名

・クオリティマネージャー養成セミナー (日本医療機能評価機構 8 / 28 - 29、10 / 31 - 11 / 1)

・医師事務作業補助コース (日本病院会 12 /

14 - 15) 1 名

・J A M I 課題研究会シンポジウム「患者の視点に立った医療データ分析に関する研究」(医療情報学会 7 / 16) 1 名

・D P C 制度の現状と今後の方向性に関する講演会 (日本病院会 10 / 9) 1 名

・保健予防・ヘルスプロモーション活動交流集会 2013 (全日本民医連 9 / 7 - 8)

・D P C データ研究班セミナー (診断群分類研究支援機構 12 / 10)

②研究発表

1) 第 4 回日本プライマリケア連合学会学術大会 (5 / 18 仙台)

・中心静脈カテーテル刺入部位選択理由の検証を試みて [共]

2) 第 51 回日本医療・病院管理学会学術大会 (9 / 27 京都)

・全日本民医連 Q I 事業による中小病院の情報活用と医療の質改善

3) 第 55 回全日本病院学会 (10 / 3 大宮)

・医療の質公開の試行的とりくみ～パートナーシップの質的变化をめざして

4) 第 11 回全日本民医連学術運動交流集会 (10 / 6 札幌)

・患者閲覧用電子カルテ「マイかるて」により医療におけるパートナーシップを強める

・健診データを活用し地域住民の健康増進活動につなげる試み

5) 第 87 回日本感染症学会総会 (11 / 20 横浜)

・当院における血液培養検査の現状について [共]

6) 第 9 回日本医療の質・安全学会学術総会 (11 / 23 東京)

・パートナーシップを強める「マイかるて」(患者閲覧用電子カルテ) の取り組み ベストプラクティス最優秀賞受賞

7) 2013 年度埼玉民医連運動交流集会 (12 / 22)

・健診データを活用し、健康増進活動につなげ

るためのアクションプラン

・D P C の適切なコーディングをするための取り組みとその成果

・Q I からの課題提起その後①～5つの課題から～骨折およびレベル 4 以上の転倒・転落事故を中心に

・Q I からの課題提起その後②～栄養管理はすべての治療の基本～

③ランチ学習会開催 40 回

5. その他

①講演

・Q I 活用で医療・介護の質向上を！：岐阜民医連 (2 / 23)

・どれだけ頑張ったかではなく、どれだけよい結果につながったか」をモノサシにする：医療福祉生協連医療の質改善交流集会 (3 / 10 東京)

・「どれだけ頑張ったかではなく、どれだけよい結果につながったか」をモノサシにする／医療の質指標・改善 (Q I) 活動の 3 年間の取り組み：川崎協同病院 (7 / 25)

・医療の質向上のための Q I の具体的活用について：宮崎生協病院 (9 / 21)

・D P C を理解する～導入から活用まで～：大田病院 (10 / 15)

・医療の質向上をめざして～診療所で C I を活用する：全日本民医連北関東甲信越地方協議会診療所事務長研修会 (11 / 30 長野)

②執筆

・事務部門とクリニカルインディケータから組織医療の質向上に貢献する事務部門の役割 (医療アドミニストレーター第 4 巻第 42 号 2013 年 9 月号)

③見学受け入れ

・D P C 導入指導 (利根中央病院 5 / 29 3 名)

・病歴管理全般と質的監査 (前橋協立病院 11 / 15 2 名)

25. 外来医事課

1. 概要

病院には多くの医療職種が勤務していますが、その中でも事務の役割はかなり幅広い業務が存在します。

当課の病院での役割は医療の質や接遇の質を維持するため様々な業務を行っています。また、病院で行われる医療行為をしっかりと収入につなげることも重要な役割として存在しています。会計を作成し、患者様の自己負担分をいただいたり、保険請求を行ったり、収入として入金される医療費の管理を行っています。

また、業務全体の調整役としての業務も存在しています。会議や様々なチームの運営事務局も行っていきます。

2. スタッフ

74 人 (常勤 23 人 非常勤 51 人)

3. 業務内容

■受付・会計チーム (電話センター) 23 人

受付会計 (常勤 7 人 非常勤 9 人)

電話センター (非常勤 6 人)

後方業務・データ出し等 (非常勤 1 人)

①総合受付業務

総合案内、新患案内、再診案内、新患カルテ作成、生協組合員加入案内、物品管理

②合体業務

処方箋の印鑑押し、院内、院外のオーダー代行入力業務

③収納業務

会計入力後のお金の収納業務

④電話センター業務

電話案内、予約の受付

⑤後方業務

予約総括表の管理、運用。データ出し。眼科カルテ管理。

■内科チーム

18人 (常勤5人 非常勤13人)

①内科急患外来

内科急患外来患者受け入れ、救急対応、転送の対応、医師補助業務。

②専門外来

糖尿病、呼吸器、循環器、etc. 内科疾患の専門領域を扱う。

患者受け入れ、予約管理、検査案内。

チーム会議の運営。

③内視鏡業務

内視鏡の予約管理、チーム運営。

■外科チーム

18人 (常勤9人 スタッフ職員1名 非常勤8人)

皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、外科、小児科、整形外科、泌尿器科、婦人科

各診療科の受付業務、予約管理、検査案内。各診療科会議の運営。

■看護学生担当

1名 (常勤1人)

新入職員に看護協会の入会案内 奨学生への企画やインターンシップの受け入れ。

4. 教育・研修・研究活動

- ・2012/6/4-15 事務総合職インターンシップ (日本福祉大学)
- ・2012/7/2-9 事務総合職インターンシップ (埼玉県立大学)
- ・2012/8/27-9/7 事務総合職インターンシップ (立命館大学)

5. その他

外来医事課 理念

☆患者様に寄り添い、心のこもった対応を常に心掛け、患者様に接します。

☆医事業務のプロフェッショナルとして常に学ぶ精神を持ち勉学に励み、知識の向上に努めます。

☆患者様の満足度を向上させるとともに職員のやりがいも持ち、続けられる職場環境を全職員で作ります。

☆職場内、職場外にかかわらず医療生協さいたま職員としての自覚を持ち、個人情報保護を遵守し、品位を持った行動をします。

☆基本的な人権を尊重し、社会的不平等の是正を目指し、社会保障制度の確立の為に医療制度の改悪に反対します。

☆医療とは対極にある戦争や平和を脅かすものに反対し、平和のために行動します。

26. 入院医事課

1. 概要

入院指示が出てからの入院までの患者様の対応～入院中の患者様の対応を担っています。

病院の医療収入の半分以上を入院診療で占める中、入院で行われる医療行為を正確にかつ漏れなくお金に換えることは、病院の経営にも大きく関わってきます。

私たち入院医事課では、保険請求業務をはじめ、医師アシスト・看護補助業務といった多岐にわたる業務を担い、医師・看護師が治療・看護に集中できる環境をつくり、患者様への質の高い医療の提供へつなげていきたいと考えています。

2. スタッフ

常勤：8名 事務スタッフ：2名

パート職員：11名

3. 業務内容

病棟事務

病棟医長・看護長と共に病棟会議を開催し、病棟運営の指揮を担います。年度予算の作成や診療内容の分析・提案などを行います。日々の退院会計や保険請求 (レセプト作成) 業務も行います。

医療費や社会保障制度など、患者様への説明相談にも対応します。

病棟クラーク

全病棟に配置され、入院患者様の診療データや書類等のスキャナ・整備を行いながら、電話対応・窓口患者対応を行っています。

入院係

予約入院の患者様への案内と入院当日までの準備、当日受付。即日入院のベッド調整や入院関係

データの収集と分析、発信を行い、ベッドの効率的な運用を行います。

手術室

オペ予定表作成や月報の作成など、手術室内での事務業務を担っています。

4. 教育研究活動

病棟担当事務が持ち回りで毎月病棟分析データの交流会を行い、それを基に病棟会議やチーム会議でクリニカルパスの見直しや診療内容の見直しについて議論してきました。また、他部門向けに診療報酬に関する学習会やDPCに関する学習会を行い、常勤職員全員が講師を務めることができました。

その他、経営の視点を高めるためにセミナーへの参加を積極的に取り組んできました。

27. 医療社会事業課

1. 概要

特徴、特色

【理念】 ～地域に開かれた相談室～

(1) 患者様の不安や心配事を受けとめ、社会福祉の専門性を活かし、安心して生活できるよう支援します。

(2) 不十分な社会保障制度をより良くするために、あきらめずに患者様とともに運動します。

【職務】

患者・家族が抱える以下のような事柄に対し、個別に相談・援助を行う。また、必要な社会保障制度の活用につなげ、院内の他職種や地域の様々な機関と連携・調整を行い、患者が安心して療養・生活できるよう支援を行う。

(1) 患者の療養にかかわる問題

(2) 経済的な問題

(3) 権利擁護問題

(4) 介護問題

(5) 心理・情緒的問題

(6) 医療・介護施設の紹介、活用できる社会保障制度の説明・相談援助

(7) 病気に対する医学的な質問や入院中あるいは生活上の不安の解消等

(8) 病院のシステムや職員の対応等についてのご意見や質問の窓口

2. スタッフ

常勤 10名 (社会福祉士 9名、精神保健福祉士 1名)

非常勤 1名 (社会福祉士 1名)

3. 業務実績 (右頁表参照)

4. 教育研究活動

●実習受け入れ

インターンシップ、社会福祉士実習等受け入れ 15名 (埼玉県立大学、東洋大学、日本社会事業大学、立正大学等)

●講師活動

立教大学芝田ゼミ講義にて4単位講師活動

5. その他

かわぐち困りごと相談会 2013 参加。

埼玉協同病院 医療社会事業課 月報 2013年度

【相談件数】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
延べ件数	1064	1156	1021	1147	1179	963	1048	1074	982	990	1051	1199	12874
実件数	556	659	610	644	674	596	644	628	589	608	615	666	7489
新規件数	446	497	410	462	494	457	509	477	487	504	533	547	5823
MSW一人当たり延べ相談件数	109	118	104	117	120	109	107	110	90.9	101	107	122	
MSW数 (常勤換算)	9.8	9.8	9.8	9.8	9.8	8.8	9.8	9.8	10.8	9.8	9.8	9.8	
【利用別】													
入院	549	514	446	527	549	421	465	512	466	484	506	594	6033
外来	463	563	486	531	575	493	541	509	444	440	440	494	5979
往診	0	1	5	1	1	0	3	3	1	1	0	0	16
その他	52	77	83	88	53	46	37	48	71	63	102	110	830
【相談方法】													
面接	597	628	606	677	670	548	592	614	556	590	577	594	7249
電話	436	487	374	435	484	400	433	426	367	369	438	550	5199
訪問	4	5	4	3	2	1	3	4	5	4	1	2	38
その他	27	31	37	31	22	12	19	25	53	25	32	50	364
【相談対象 (複数の場合は一人)】													
本人	407	464	407	465	466	403	457	429	378	371	401	396	5044
家族	337	337	331	370	382	301	292	339	270	322	309	385	3975
医師	4	2	1	3	7	2	1	3	7	3	1	3	37
看護婦	1	2	2	0	5	2	1	1	2	2	0	1	19
他職員	1	3	2	3	3	4	3	0	1	2	2	2	26
法人内機関	45	55	36	39	43	36	43	39	43	33	36	31	479
法人外機関	221	260	202	229	243	197	232	232	219	225	36	323	2619
組合員/その他	47	32	38	38	30	17	17	29	59	31	32	54	424
【新規紹介経路】													
本人	95	124	89	102	94	78	106	101	93	88	114	131	1215
家族	79	75	73	78	77	79	70	89	77	103	90	88	978
看護婦	40	44	28	35	40	42	81	37	50	39	47	61	544
医師	50	42	43	36	50	51	34	55	38	43	47	31	520
他職員	34	26	26	22	17	16	22	23	16	23	17	20	176
法人内機関	11	10	11	7	15	16	25	15	16	28	20	12	186
法人外機関	55	64	33	65	67	66	75	64	69	65	84	69	776
組合員,その他	34	2	26	0	1	1	3	3	1	23	1	1	96
当院MSW	17	40	43	30	42	35	29	25	22	16	21	19	339
【導入面接】													
精神科インテーク	24	27	33	39	30	38	35	36	31	30	32	30	385
往診インテーク	32	1	0	0	0	0	2	1	2	1	1	3	43
リハビリ評価外来インテーク (休診中)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【相談内容 (重複あり)】													
当院への転入院相談	32	59	60	69	48	36	66	58	58	51	85	80	702
受診・受療相談	71	115	96	119	116	106	120	121	76	73	119	102	1234
経済的問題に関する相談	25	13	30	14	22	15	20	24	17	23	29	19	251
対人関係・家族関係などの調整	109	107	82	97	96	77	87	91	74	91	99	131	1141
本人への療養上の援助	314	296	284	339	354	264	274	282	262	236	290	270	3465
家族・知人への介護などの援助	134	106	116	121	110	92	75	64	68	73	100	66	1125
退院計画と調整	197	133	155	160	151	141	149	183	160	187	204	287	2107
社会資源の紹介と活用のための援助	153	158	158	155	154	145	138	101	98	99	93	116	1568
介護保険にかかわる相談・手続き	104	121	128	146	163	135	148	144	111	160	188	193	1741
療養支援会議	27	24	24	28	36	24	23	32	26	33	24	13	314
家屋調査	3	1	1	2	1	0	2	3	1	4	1	3	22
じん肺	1	0	1	0	3	2	7	3	6	1	0	2	26
生活保護申請	3	3	2	4	8	1	4	8	7	4	7	6	57
身体障害者手帳(H25.7～)				4	21	16	22	10	9	15	9	4	110
がん (H25.7～)				14	36	23	37	26	25	29	45	35	270
その他	53	78	52	58	94	67	72	83	92	99	52	93	893
医療安全相談窓口	3	5	1	3	4	3	2	3	3	3	2	2	34

精神科デイケア (実日数)	12	12	12	13	13	12	12	12	11	11	12	12	144
精神科デイケア (のべ人数)	114	109	106	115	109	105	113	125	121	121	123	130	1391

【民医連Q1】

短期保険証相談件数	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	4
資格証明書相談件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無保険相談件数	0	2	1	0	3	1	0	4	2	3	2	1	19

28. 地域連携課

1. 概要

特徴、特色

- ・昨年に引き続き、近隣病院の地域連携実務者の定例会議、川口市の地域包括ケア会議に関わる病院部会の会議、感染防止対策カンファレンスに関わる合同カンファレンス等、お互いの情報交換や質の向上、市内の地域連携の推進を目的に、連携を密にした取り組みを様々に行いました。
- ・9/19に開催した「第30回地域医療懇談会」では過去最多となる34医療機関59名の方に来院していただきました。川口市医師会長をはじめ、川口市消防本部の救急課長など行政の皆様の参加もあり、地域の急性期病院としての役割や期待が高まっていることを実感しました。講演は小児科科長の荒熊医師より「小児科のご紹介」と小児科・新井医師より「紹介患者様の御報告」を行いました。

2. スタッフ

常勤3名(事務総合職2名、社会福祉士1名)、非常勤1名(事務)

3. 業務内容

地域連携課の主な業務は、①診療情報提供書及び返書のデータ入力と郵送、②他院からの即日入院や受診窓口(高額機器検査を含む)、③訪問活動に分かれます。

①診療情報提供書及び返書のデータ入力とアシスト業務

1ヵ月に400～450件前後の診療情報提供書及び返書を「病院名」「診療科」「目的」「病名または病状」などのデータとして集積しています。医師アシスト業務として「事務返書」(1次返書=来院

報告)や診療情報提供書の下書きも行い、適切なタイミングで返書の依頼も行っています。今年は事務返書の業務効率化を確立し、入力データから直接他院の住所、病院名等が記載されて打ち出しができるようになりました。

②他院からの即日入院や受診窓口(高額機器検査を含む)

地域の開業医を中心に緊急入院の依頼窓口となっています。入院依頼をスムーズに行う業務手順として「ベッド調整」→「リーダー医師」への確認を5分以内で返答するようにしています。紹介元を待たせない対応を心がけています。

また各専門外来の受診・予約調整を行っており、患者・開業医のニーズに応じて適切に対応しています。MRI・内視鏡検査などの高額機器の共同利用の窓口にもなっています。

入院相談：月平均58件
受診相談：同135件 検査：同74件

③訪問活動

- ・2013年は火・金を定期訪問日として近隣医療機関へ返書や検査結果の配送、開業医の先生方への訪問などを行いました。
- ・広報紙「ふれあい」の開業医の先生方へのインタビューを継続して行いました。
- ・地域の急性期病院が主催する「地域連携の会議」には必ず出席し、連携実務者会議(4ヵ月に1回)も継続して参加しました。

4. 教育研究活動

- ・全日本民医連 救急医療研究会 第1回学術交流会(2月)
発表演題：「救急医療を發揮する地域連携の取り組み」

29. 安全企画室

1. 概要

特徴、特色

患者と職員の医療安全活動を推進し、患者と職員を医療事故からまもるため、専従の医療安全管理者が配置されています。院内外の医療安全対策に関連する縦横の組織を、中核となって取りまとめる役割を担います。一方で、専任の事務を置き、管理部の補佐として病院機能を維持するために必要な文書作成や申請・手続きを実施し、文書を管理する役割も担っています。

これら二面の役割を有しています。

2. スタッフ

専従医療安全管理者：1名
常勤事務：1名
非常勤事務：1名

3. 業務内容

■医療安全活動推進

- ・職員から報告されたインシデント・アクシデントの報告書を集約
- ・事故発生時の調査及びヒヤリング
- ・医療安全委員会、部門リスクマネージャー会議の開催と推進
- ・安全管理に関する広報・教育・研修の立案
- ・職員の労働衛生を推進するためのデータの集約とメンタルヘルス
- ・院外の医療安全活動組織への参加

■病院機能管理補佐

- ・公機関への各種申請業務
- ・病院運営上必要な書類の収集と保管・管理

4. 教育研究活動

- 医療安全委員会の事務局として、医療安全に

関する教育の管理・実施をしています(■頁・委員会報告参照)

■スタッフにおける教育状況

医療安全に関する学習

- ・e-ラーニング「暴言・暴力の対応について学ぶ」「ノンテクニカルスキルとは何か？」実施

感染対策に関する学習

- ・e-ラーニング「感染対策学習」「協同病院におけるインフルエンザ対策」実施
- ・院内感染対策学習会参加

個人情報に関する学習

- ・e-ラーニング「個人情報学習」実施
- その他、スタッフの専門的知識を向上させるため、外部の学会や研修会への参加
- ・医療の質・安全学会学術集会 1名参加
- ・県連学術運動交流集会 1名参加
- ・全日本病院協会主催 医療安全対策講習会 1名参加
- ・平成25年度厚労省他職種協同によるチーム医療推進事業——職種横断的質向上チームの構築と推進人材の育成——「医療のTQM七つ道具」研修会 1名参加
- ・日本医療機能評価機構・認定病院患者安全推進協議会 平成25年度全体フォーラム1名参加

30. 組合員活動課

1. 概要

組合員活動課は、住民の「健康で安心した暮らし」を実現していくために、医療生協の活動を知らせ、「参画」してもらい、全職員や他団体の協力のもと、社会に働きかけ、「地域まるごと健康づくり」を目指しています。

県南地域ネットワークの南部地区 A・B ブロックを主に担当しています。

2. スタッフ

常勤事務職員：3 名 非常勤事務職員：1 名

3. 業務内容

○「健康で安心した暮らし」のために

「昨日よりも今日が、そして明日が、いっそう意欲的に生きられる(医療生協の健康観)」ように、「8 つの生活習慣と 2 つの健康指標」の実践や、まちなみチェックなどで「安心して暮らせる」よう働きかけます。

○医療生協の活動を知らせ参画してもらうために
まだ医療生協を知らない方に、加入してもらえよう「仲間ふやし」を行います。

また、組合員には、「班を基礎にした自主的支部活動」や「事業活動」を知らせ、利用・参画してもらいます。

○全職員や他団体と協力していくために

全職員が医療生協活動に関われるよう「支部」と「職場」のパイプを太くし、地域の他団体との協力・共闘も広げていきます。

○社会に働きかけ「地域まるごと健康づくり」

を目指すために

憲法 9 条・25 条が息づいた「すべての住民が笑顔で暮らせる地域社会」をつくるために「ひとりひとりが主人公」となるよう社会参加をしていき

ます。

4. 教育研究活動

組織担当者研修会

全国・関東甲信越での活動交流会への参加等

31. 健康管理課

1. 概要

健康診断の予約から実施、結果返しの実務を担当しています。

健康増進センターの運営を担当し、健康診断に関する業務について担当しています。

特徴

特定健診・特定保健指導、企業定期健康診断、労働安全衛生法に基づいた健診から生活習慣病予防健診、子宮がん、乳がん検診など大人の健診を専門としています。健康管理課は事務スタッフですが、医師を中心とした技術スタッフ、保健師等の看護スタッフについては各部門から増進センターの運営スタッフとして配置され、協力してセンターを運営しています。

特色

年間約 2 万 5000 件の健康診断実施

健康診断後の 2 次健診についても担当

2. スタッフ

常勤事務職員：5 名 非常勤事務職員：16 名

3. 業務内容

2012 年度	事業所健診	1 万 1606 件
	協会健保生活習慣病	3629 件
	川口市国保特定健診	2318 件
	川口市国保人間ドック	2292 件
	人間ドック	819 件

その他川口市がん検診等も実施しています。

4. 教育研究活動

・健診受診者の喫煙率と禁煙活動の取り組み

32. 資材課

1. 概要

特徴、特色

病院で使用する医療材料・伝票類(印刷物)・事務用品などの購入業務を行っています。

2. スタッフ

常勤 3 名 スタッフ職員 1 名

3. 業務内容

- ・医療材料の『購入・入出庫・在庫管理』業務
- ・印刷物や事務用品、日用品の購入・入出庫管理業務
- ・棚卸し決算集計(請求書)業務
- ・見積り・価格交渉(通常)業務
- ・全県医療材料のマスター管理
- ・医療材料の情報発信
- ・医療材料の問い合わせ窓口
- ・医療機器等の修理受付、各業者依頼業務
- ・S P D (院内物流)委託業者との連携業務

4. 教育研究活動

2013 年度は、全日本民医連医療材料担当者会議に 9 月と 2 月に参加して、医療材料をめぐる情勢の学習と全国の動向を知り、価格交渉に役立てました。

また、医療材料委員会の報告書から医療材料の説明ミニ学習を行い、正しい理解と正確な業務が行える力量をつけました。

5. その他

2013 年度は、医療消耗品を中心に価格の見直しを実施しました。ベンチマークによる価格低減は、12 品目で効果額は 69 万 1550 円/年、物品の切替えでは、21 品目で効果額 255 万 4681 円/年と

なりました。医材の全県統一の取り組みとしては、10品目で効果額2,607,432円(ベンチマーク重複あり)の削減効果となりました。

33. 総務課

1. 概要

主な業務として、人事労務・経理・総務があり、職員、組合員さんや患者・利用者さんに向けた対応を行っています。履歴書、資格・認定証等の保管を行い、入退職や部門間異動の手続きを行っています。各種届出書などの書類を受け付け、本部や他事業所との対応を行っています。出資金に関する窓口として、加入・増資や減資・脱退の手続きを行っています。

院内保育所である「つくし保育所」の入所申請を受け付けています。さらに保育所運営の相談も行っています。

2. スタッフ

常勤職員3人、スタッフ職員1人、非常勤職員1人

3. 業務内容

人事労務業務として、募集と応募者の受け入れがあります。ハローワークや民間の人材紹介会社へ募集内容を提示し、応募者の窓口となります。広告の一部も担当しています。入職者にとって最初の窓口となります。入職に関わる書類の作成、提出などの事務手続きと、ユニフォーム、名札、ロッカー、駐車場などの福利厚生面を担当しています。法人内の異動者の受け入れも同様に総務課が担当しています。国家資格をはじめ、認証資格の情報を集積し始めました。誰がどのようなライセンスを持っているのか、その資格が活用されているかを確認していきます。さらに、結婚や改姓、産休や育休などの申請を受け法人本部とのパイプとなり、必要な書類の受け渡しや手続きを行っています。

約520人が利用している職員駐車場の使用登録や駐車場所の指定などを行っています。環境管理

課と協力し、職員駐車場利用者の確認を定期的に行っています。

院内の会議室の予約管理、パソコン・プロジェクターなどの備品管理を行っています。共有で使用できる財産がたくさんあります。数に限りはありますが、いつでもだれでも使用できるよう準備しています。

医療生協さいたま共済会の窓口として、慶弔金や医療費助成、企画参加の申請などを受け付けています。

34. つくし保育所

1. 特徴、特色

2013年度は在籍児7名でスタートしました。育休明けや入職に伴い、年度末には30名となりました。

医師、看護師、介護師、技術職、MSW、事務等いろいろな職種の方に利用いただいています。年齢別では0歳クラス4名、1歳クラス24名、2歳クラス2名と1歳クラスが多く、そのなかでも、月齢別に分けて発達にそった保育を心がけました。休日保育は月に3～4回、夜間保育は月に11回あり、臨時の方にも多く利用されています。今年度は職場全体で食育に取り組み、給食の見直しをしました。

父母会では食事についてのミニ学習会や試食会を行いました。また地域の組合員さんを対象にした公開保育では交流会を兼ねた給食体験、食事についての悩み相談を行いました(7月～11月計4回)。

2013年度は21名の子どもたちが公立保育所へ移行となりました。

2. スタッフ

常勤：3名 日勤パート職員：10名
調理師：1名 夜間パート職員：3名

3. 業務内容

- ・日常保育業務(在籍児、臨時、夜間、休日)
- ・小児科病棟保育
- ・体験保育(組合員対象)
- ・小児科1ヵ月、乳児健診(赤ちゃん体操、生活リズム、スキンケア担当)
- ・小児科1歳半健診(おやつ、絵本の話担当)
- ・小児科ベビーマッサージ教室(ベビーマッサージ担当)

- ・小児科フォロー児体験保育
- ・小児科離乳食教室保育
- ・産婦人科経産婦うぶ声教室保育
- ・子育て教室 (学習会の講師「乳幼児の発達」、親子リズム担当)
- ・わいわいサークル、地域わいわい等の班会講師
- ・わいわい健診保育
- ・小児科壁面製作

4. 教育研究活動

- ・離乳食、幼児食の学習会 (小児科 Dr を講師に部門で実施)
- ・全国保育団体合同研究会 3 名参加
- ・2013 年度 埼玉民医連運動交流集会 1 名発表
- ・2013 年度 全国民医連運動交流集会 1 名発表

35. 環境管理課

1. 概要

病院は、衛生的で快適な環境でなくてはなりません。インフラ (電気・水・ガス) も、突然停止することができないものです。環境管理課ではインフラ関連の管理を主な業務としています。

病院設備管理、バスの往診車などの運行管理、清掃・警備などを委託業者と協力しながら管理を行っています。

2. スタッフ

常勤 2 名とパート 2 名
(2014 年 3 月 16 日より常勤 1 名追加)

3. 業務内容

- ・病院の建物、空調や電気等の施設管理業務
- ・日常的な清掃と突発的・不定期の清掃、廃棄物の管理業務
- ・防災センターや正面玄関・駐車場の警備・誘導業務
- ・郵便・診療所・地域便や往診の運行管理業務

4. 教育研究活動

2013 年度は、病院の公用車を管理管轄している部門として、省エネ推進事務局の書記として、各々で企画・立案して実施しました。

- ①安全運転の講習会を年 2 回実施しました。
- ②年 2 回の環境学習会を開催しました。

36. 教育研修室 (教育研修センター SKYMET)

1. 概要

埼玉協同病院教育研修センター (Saitama Kyodo-hospital Medical Education and Training Center)、略称 S K Y M E T は、埼玉協同病院の教育と研修を担うセンターとして 2011 年 3 月 16 日に活動を開始しました。

S K Y M E T は、医師の初期研修、後期研修・専門研修および生涯研修の充実をはかることを目的に、広く医学生や地域でご活躍の先生方に教育研修活動を公開し、より連携を深めています。また、

2013 年 12 月からは本部の医学生分野の業務移管を行い、高校生から医師養成まで一貫した対応をすることになりました。

2. スタッフ

センター長：村上 純子 臨床検査科部長
 事務局長：市川 大輔 教育研修室課長
 スタッフ：小幡 国子 特任研究員
 井上千鹿子 特任研究員
 荒井 新
 高橋あゆみ
 運営委員：雪田 慎二 初期研修プログラム責任者 (副院長)
 関口由希公 後期研修責任者 (さいわい診療所所長)

教育研究活動

4 月		
4 月 27 日 (土) ~ 28 日 (日)	研修室	IPW 研修 テーマ：中堅職員として、チームを動かす力の向上を図る 企画：SKYcoMET ※ IPW：インタープロフェッショナルワーク、専門職連携実践
5 月		
5 月 17 日 (金) 19:00~20:30	講演会	SKYMET 講演会「救急医療の心得」 テーマ：「救急医療の心得」 講師：寺澤秀一先生 (福井大学)
10 月		
10 月 19 日 (土) ~ 20 日 (日)	研修室	第 5 回 埼玉協同病院 臨床研修指導医講習会 テーマ：「卒後臨床研修カリキュラム・プランニング」
10 月 24 日 (木)	講演会	感染対策学習会「the 消毒～手指消毒」 テーマ：手指消毒 講師：鈴木明子先生 (城西国際大学看護部)
11 月		
11 月 27 日 (水)	講演会	感染対策学習会「医療器材関連感染」 テーマ：医療器材関連感染 講師：平井由児先生 (東京女子医科大学感染症科)
2 月		
2 月 7 日 (金) 18:30~20:30	研修室	感染症から学ぶ診療セミナー テーマ：「感染症診療の実際」 講師：細川直登先生 (亀田総合病院、総合診療・感染症科、IDATEN (日本感染症教育研究会) 世話人)
3 月		
3 月 25 日 (火) 17:30~19:00	発表会	2013 年度 臨床研修修了発表会

守谷 能和 初期研修責任者（消化器科医長）
 小野寺由美子 教育担当管理（看護副部長）
 本戸 文子 医師担当管理（事務次長）
 我妻真己子 医局事務課課長

3. 業務内容

- ①新たな初期研修プログラムの開発
 - ・初期研修および後期研修プログラム
 - ・シミュレーター等による教育
 - ・医師再教育プログラムの開発（診療所医療、総合診療、女性医師など）
 - ・多職種の研修プログラムとの連携
- ②指導医・指導者養成（臨床研修指導医講習会を毎年開催）
- ③カンファレンス、学習会、研究会の支援
 - ・学習会、研究会の開催支援
 - ・近隣での研究会情報の収集と公開
- ④教育研修の地域連携・交流
 - ・外部講師の招聘による学術講演、カンファレンス指導、ER指導、研修症例カンファレンスなど交流の実施
- ⑤ホームページ、出版物による活動成果の公開
- ⑥資格取得、認定施設の管理
- ⑦初期研修、後期研修修了者のフォローアップ
- ⑧コメディカルを対象とした教育研修（企画チームの総称：SKYcoMET）
- ⑨医学生対応（病院見学、研修説明会の開催、合同説明会への参加、奨学生対策）
- ⑩高校生の医学部合格までの支援（1日医師体験の開催、模擬面接の実施、合格お祝いの開催）

4. 教育研究活動（前頁参照）

37. 看護育成室・感染対策室

1. 業務概要

- ・スタッフ教育・支援
- ・特定分野における看護実践
- ・感染管理全般

2. スタッフ

- ・常勤：看護師3名（皮膚排泄ケア・糖尿病看護・感染管理認定看護師）
- ・非常勤：看護師1名

3. 業務内容

- ・講師活動（法人内外）
 - 院外：11件（看護協会1件含む）
 - 院内：28件
- ・コンサルテーション対応（法人内外）
- ・特定分野に関連した外来（糖尿病・フットケア・ストーマ）・病棟ラウンド（ICT・褥瘡）
- ・特定分野に関連したデータ集約・分析

4. 教育研究活動

- 学会・研究会演題発表
- ・日本感染症学会学術講演会／日本化学療法学会 合同学会（1演題）
 - ・日本病院学会（1演題）
 - ・医療生協さいたま看護学会（2演題）

学会・主な研修参加

- ・日本糖尿病学会年次学術集会
- ・糖尿病看護学会
- ・日本病態栄養学会年次学術集会
- ・日本褥瘡学会学術集会
- ・日本環境感染学会
- ・医療福祉生協連、看護師長研修会

38. 在宅看護科

1. 概要 特徴、特色

医療依存度の高い患者様、終末期患者様を中心とする訪問診療の実施と在宅看取りの支援を行っています。

また、訪問診療の患者様を支援する地域の医療・介護・福祉事業所、行政との連携を図っています。

2. スタッフ

看護師 3名
 部門責任者は退院調整看護師兼任

3. 業務内容

- ・訪問診療同行：月平均29単位
- ・臨時往診同行：82件／年
- ・医師代行入力支援・訪問看護特別指示・訪問点滴指示書：70件／年
- ・肺炎球菌ワクチン予防接種：16件／年

●死亡場所割合（％）

	病院死	在宅死	その他	総計
2007年	76	15	8	100
2008年	80	19	1	100
2009年	69	31	0	100
2010年	44	52	4	100
2011年	35	60	5	100
2012年	36	59	5	100
2013年	33	66	1	100

4. 教育・研修・研究活動

- 第19回 回県南在宅医療研究会 3名、県南ニュートリション経腸栄養セミナー 3名
- 看護協会主催研修 2名、市民公開シンポ文科省新学術領域研究 1名、院内学習会 26回
- 班会参加 8回
- 研修受け入れ 協同病院 卒後2年目看護師訪問診療3名、医療相談員2名

西部文理在宅看護学実習 2名、医学生実習 3名、看護インターンシップ 1名

5. その他

2013年度より、死亡患者様の家族に向けて、訪問診療満足度アンケート調査の実施がスタートしました。

2013年4月～2014年1月までに亡くなった患者様・ご家族59人に郵送し、回収は29人（49%）でした。

回答者のうち、76%は自宅で亡くなった家族です。79%の方が在宅での療養に満足を感じています。医師、看護師の説明は72%の方が分かりやすいと答えています。79%の方が訪問看護やケアマネジャーとの連携が取れていると答えています。介護上「食事作り（45%）」「おむつ交換（38%）」「清潔ケア（28%）」の順に大変と感じていることが分かった半面、21%の方が「大変と思わなかった」と答えています。

当院の訪問診療に対する満足度は、総じて評価の高い結果となりました。今後も個別性に合わせた在宅支援を実施していきたいと思えます。

胃ろう栄養で在宅管理されている方のアンケートは4人の回答数でした。「入院中の説明で退院後の生活のイメージが伝わったか」では、「あまり想像できなかった」が3人でした。「胃ろうで介護していて戸惑いあったか」では「かなり想像と違い戸惑った」が3人でした。「胃ろうを造ってよかったか」では「本人・家族ともよかった」の答えはなく、「家族にとってはよかったが、本人にとっては疑問が残る」が3人で、「本人にとってはよかったが、家族は大変だった」が2人、「家族・本人とも造ってよかったのか後悔が残る」が1人でした。胃ろう造設前に本人の生きる質（QOL）を見たときに造設する意義の話し合いや、自宅での胃ろう介護のイメージをつけられるような十分な説明を病棟との連携で強めていかなければならないと感じました。

39. 経営企画室

特徴

経営企画室は、業務を通じて当院の適切な黒字経営に貢献します。

また部門の皆様からの様々なご要望にお応えして、支援させていただく機会が多々あります。直接現場にお邪魔して、問題解決や課題の達成に現場の方々と一緒にお仕事させていただく機会もあります。現場の方々に近い存在の経営企画室でありたい、と心がけて日常業務にあたっております。

業務内容

経営企画室では、経営統計業務・予算作成業務・広報業務を行っています。

1. 経営統計業務

経営管理に必要な数値を集めて、経営月報の作成や予算管理、経営分析等を日常業務として行っています。厚生労働省や日本病院会などの公的な機関からの調査依頼にも、安全企画室と協力して報告書を作成しています。

2. 予算作成業務

診療報酬改定など時節に対応した事業計画書を作成し、予算計画を作成します。また毎月の経営結果を分析し、的確な経営情報を院内に提供します。

3. 広報業務

「広報」は、総務課と協力しながら行っています。広報誌「ふれあい」の編集会議に参加します。埼玉協同病院の「年報」編集委員会の事務局、ホームページを委託業者を通じて作成・管理しています。当院の医療内容や活動を紹介して、患者利用増や医師・看護師などの求人に貢献することをめざしています。